NEWSLETTER No.18 2018 年 3 月発行

ケイシー療法によるがん治療の指針

(2018 年改訂第 2 版)

食事療法・毒素排泄・薬草（オオバコ、マリーン）・
炭素灰＋光線療法（フラーレン・フォトセラピー）で
がんを治す！

Sample

第 18 号の内容

- 現代医学によるがん治療の現状
- リーディングの示唆するがんの発現メカニズム
- ケイシー療法によるがん治療の基本
- がんの部位別治療方針
- リーディングに見られるがん治療の一覧

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

改訂版ごあいさつ

2010 年にこの小冊子の初版を出版して 8 年が経ちました。

エドガー・ケイシーのリーディングに示されているがんの治療法を徹底的に研究し、さらに現代の日本において活用するためのさまざまなノウハウを盛り込み、がんの予防ならびに治療に役立ててもらおう――そのような意気込みで執筆致しました。

お陰様で、エドガー・ケイシーのもたらした「がん治療法」は、その有効性が徐々に認知されるようになり、この 8 年の間にも、めざましい成果をあげてまいりました。子宮がん、乳がん、前立腺がん、悪性リンパ腫、皮膚がん、膵頭がん、肺がんなど、さまざまながんにケイシー療法の有効性が証明されてまいりました。

さて、この度、白鳥哲監督によってエドガー・ケイシーのドキュメンタリー映画『リーディング』が完成し、全国の映画館での上映や各地での自主上映が予定される段階になりました。

この映画には、エドガー・ケイシー療法によって（がんを含む）さまざまな難病を克服された方々の証言が登場致します。そして、おそらくはこの映画をきっかけに、ケイシー療法に基づくがん治療法についての関心がますます高まるであろうことが予測されます。

そのような経緯もあって、この度、この 8 年間の実績を踏まえて、改訂版を発行することに致しました。

必要な材料の入手方法など、執筆時点での最新情報にアップデートいたしました。また、この 8 年間に有用性が確認された方法について情報を追加致しました。

本小冊子が皆さまのがん予防、ならびに、がん治癒にますます役立てられますことを心より願っております。

2018 年 2 月 20 日

NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

光田　秀

Sample

免責事項

この小冊子で紹介しているケイシー療法は、あくまでエドガー・ケイシーが各依頼者に対して与えた情報をもとにまとめたものであり、また、この小冊子はいかなる治癒を主張するものでもありません。ここで紹介する方法のいずれかを実行しようとする場合は、各自の責任と判断のもとに、しかるべき資格を有する医師あるいは医療従事者の監督の下に行ってください。

ここで紹介している方法を実行したことで如何なる不利益が生じたとしても、著者ならびに発行元である NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンターは一切の責任を免れるものとします。

Sample

はじめに

このレポートは、エドガー・ケイシーのリーディングの中から「がん」治療に関するものを選び出し、それらを詳細に検討してまとめたものです。がん全般に対するケイシー療法の基本原理を抽出して解説し、さらに、がんの分類ごとに際立った特徴のあるものは、それらの特徴を明らかにすることで、それぞれの具体的な状況の中でケイシー療法がより適切に活用されることを目指して作成いたしました。

このレポートを熟読していただければ、ケイシーの勧めたがん治療について、実用可能な知識を得ることができることと思います。なによりもこのレポートは、実際に実行できることを目標にしています。基本原理を理解すれば、応用の幅も広がると信じます。

また、このレポートをまとめるにあたり、実際のがん治療にケイシー療法を応用している A.R.E.(米国エドガー・ケイシー財団）の研究者あるいはドクターからも、最新情報を集めるよう努力いたしました。

Sample

その結果、ケイシー療法によるがん治療に関して、きわめて重要な発見がなされていたことを知らされました。詳しくは本文に譲りますが、ケイシー療法におけるがん治療の重要な柱であり、ケイシーが 1920 年代にその製法を指示した「炭素灰（Carbon Ash)」という特殊な灰が、1980 年代に物理学者によって発見され、1990 年代から工業的に量産が可能になったフラーレン (Fullerene) という特殊な構造をした炭素とほぼ同じものであることが明らかになったのです。

この炭素灰（＝フラーレン）を使った治療原理を簡単に説明するなら、次のようになります。被験者は、毎日決まった時間帯にごく少量（米粒の半分程度）の炭素灰を内服します。そして、内服後 5 分から 30 分したところで（この待機時間はがんの状態によって異なる)、そのがんに対して血液と神経のインパルスを送ってる元になる神経叢の部位に光線（多くの場合、緑のガラスでフィルターした紫外線）を当てます。血液中に取り込まれた炭素灰が、適当な波長の光線を照射されることで、その保有していた酸素をそのがん細胞の存在する領域で放出するのです。ケイシーの主張では、がん化した細胞に充分な酸素を送ることで、がんの増殖や転移を阻止するのです。

現代医学のがん治療の基本が「手術」「放射線」「抗がん剤」であるとするなら、ケイシー療法によるがん治療の基本は、「食事療法」「毒素排泄」「灰＋光線療法」であるといえます。これらをベースにして、それぞれの部位毎の特徴が加わります。いくつか例を上

げるなら、

胃がん　ニレ茶による胃粘膜保護
肺がん　肺の細胞を賦活するアップルブランデーの蒸気の吸入
白血病　造血力を高めるためにレバーをできるだけレアに近い状態で沢山食べる
肉腫　オオバコ軟膏、オオバコ茶、オオバコジュースによって腫瘍形成力を破壊する

といったことが含まれます。

さらに、可能性のある治療法として、ケイシーはウサギによる「血清」や、ウエットセル（湿電池）を使って化学成分を波動的に人体に送る方法なども提案しています。

ウサギの血清は、最近見直されつつある免疫活性化療法やモノクローナル抗体などと比肩されるべきものかもしれません。また抗がん剤なども、直接人体に注入するのではなく、ウエットセルを使って波動的に人体に送るなら、副作用を抑えて、有効性を高められることも期待されます。

このように、ケイシー療法はがん治療に対して、新しい展望、大きな希望をもたらします。現代医学によるがん治療と対立するものではなく、それらを補完し、代替し、有望な治療法の選択肢を広げることに貢献します。願わくは、これらの情報が、それを必要としている人々に届けられ豊かな恵みをもたらしますように。また、がん研究の最前線で日々研究している方々の目にとまり、さらに大きく発展せられんことを願っております。

また、このレポートの内容に基づいて行ったセミナーを録画した DVD も販売される予定ですので、ケイシー療法によるがん治療に関して、さらに情報を求める方はそちらもご利用下さい。

Sample

2010 年 8 月 12 日
NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター
光田　秀